

成都ヴァルドルフ学校についての考察 —卒業生と校長の調査を通して—

許曉萃

はじめに

中国において、従来の「応試教育」の教育観の影響により、「素質教育」を推進する過程に様々な問題が起こっている。この教育の危機を克服するために、多くの人々が理想的な学校について問い、真の教育を求め、危機の打開を目指して模索している。問題状況を克服し豊かな真の教育を実現しようとする際に重要なことは、教育者たちが深い教育方法の思想・理論を持つことである。深い思想・理論なくしては、問題を解決することも真の教育を生み出すこともできない。教育における思想・理論の必要性と重要性を深く認識して教育の歴史をひもとくとき、筆者が強く惹かれるのは、幾人かの教育家と同様にルドルフ・シュタイナー（Rudolf Steiner: 1865-1925）の教育方法と理論である。

シュタイナーの深く壮大な理論によって生み出された教育実践は、自由ヴァルドルフ学校あるいはルドルフ・シュタイナー学校（中国では「ヴァルドルフ」（華徳福）という呼称が用いられている）の名で多くの人々に知られている。シュタイナー教育は点数競争のない、知育偏重を打破した全人教育である。芸術を基盤にしたこの学校の教育に筆者を含む中国の一部の者たちは真の教育の姿を見い出した。この学校では、子どもは受験への恐れや不安からではなく、また受験のためでもなく、学ぶ楽しさから学習に励む。シュタイナー教育こそは、理想の教育であり、時代を先取りした教育であるという声は中国国内でも日増しに高まっている。

2004年9月、中国の最初のヴァルドルフ学校—成都ヴァルドルフ学校が創設された。それ以降、成都ヴァルドルフ学校の実践者たちはヴァルドルフ学校が政府に承認されるために努め、2006年に幼稚園の正式な認可（2012年に初等教育が認可）を獲得している。

本稿は、成都ヴァルドルフ学校の四人の卒業生及び校長に対する調査を通して、今後、中国のヴァルドルフ教育の発展方向を検討したい。

1、 成都ヴァルドルフ学校の四人の卒業生に対する調査

シュタイナー教育の理論に沿ってカリキュラムや教育が工夫されたヴァルドルフ学校で学んだ卒業生たちは、どのような大人になっているのだろうか。以下に、筆者は『教

育導報』(2017)¹と『成都華徳福学校 15 周年校慶專刊 (2004—2019) (成都ヴァルドルフ学校の創校 15 周年の特集 (2004—2019))』(2019)²を参考し、成都ヴァルドルフ学校の最初の卒業生、梁偉斌、湯一鳴、黃時語、李麦という四人のそれぞれの成長過程を紹介する。

梁偉斌は現在 22 歳で、成都ヴァルドルフ学校に入学した最初の小学生であり、8 年間のカリキュラムを受けた。2012 年の時点で、中国国内にヴァルドルフ高等学校が創立されていなかったため、彼は親戚からの経済的援助を受けて、カナダのバンクーバーにあるヴァルドルフ高等学校に就学した。高校卒業後、彼は親に金銭的な負担をかけないために、授業料が安く奨学金も得られるドイツの大学に入学願書を提出した。しかし、様々な原因によって、彼は留学ビザを取得できなかった。そのために、彼の帰国が決定したのだった。

2016 年、梁偉斌は IT 会社に就職し、サウンドデザイナーになり、現在はプロジェクト責任者である。就職した現在でも、彼は大学進学をあきらめていない。梁は 5 年をかけて貯蓄し、その後に大学へ進学するという計画を立てた。学習意欲の高さから、彼は仕事の余暇に、通信教育を通して中国の哲学、作曲の方法、バークリーメソッド (Berklee Method)³などの授業を受けている。また彼は幼少より、歴史と文学に興味を持っている。

梁はインタビューで「あなたの受けたヴァルドルフ教育を思い返して、印象に残っていることは何でしょうか。」と問われた際、彼は「ヴァルドルフ教育は私に無限の可能性を与えて、私の成長と選択にある程度に影響をもたらした。担任の李澤武先生は私の気持ちをよく理解し、自分の興味を尊重し、学業への導きを与えてくれた。私は幼い頃から本に興味を持っていたため、よく一日中図書館で本を読んでいた。そのため、李澤武先生は私の興味を育てるために、私に多くの資料を提供してくれた。自分の收藏する書籍を惜しみなく私に貸してくれた。カナダで就学した時、私はピアノとギターを自習した。専門の先生の指導がないのに、私はインターネットでピアノとギターに関する授業の資料を検索することができた。この探索能力は、小学校時代から育てられている。」⁴と語っている。

梁は卒業した後、二度成都ヴァルドルフ学校で自分の成長過程を報告した。彼が自分の幅広い興味と経験を語ると、多くの人は「ヴァルドルフ教育を受けた学生たちのみんなは優れた人であるのでしょうか。」と彼に質問した。これに対し梁は「ヴァルドルフ教育は自分の成長に影響を与えただけでなく、人生経験と価値観、また仕事における成長にも多大な影響をもたらした。」⁵と答えた。

また、梁偉斌はよくヴァルドルフ教育に好奇心を持つ人に「あなたは他の教育を受けた学生とコミュニケーションする時に、互いの差異を感じるか。」と聞かれた。その際、彼は「差異は感じなかった。ヴァルドルフ教育の学生の特徴は特別であることではなく、善良であることと温和であること、これらの特徴はヴァルドルフ教育の学生によく見られる。」⁶と答えた。

「ヴァルドルフ教育はあなたの成長にどのぐらい影響をもたらすか」と聞かれた時には、梁偉斌は「人間の成長は学校・家庭・自分自身という三つの部分に相互に影響される。この三つの部分はそれぞれ人間の成長に三分の一ずつ影響をもたらす。」⁷と答えている。

湯一鳴は梁と同様に成都ヴァルドルフ学校の最初の卒業生である。ヴァルドルフ学校に入る前に、湯は三つの小学校を経験していた。彼の母親は当時の学校教育に対し自分の教育観を持っていたため、小学3年生の湯にヴァルドルフ教育を受けることを試させた。ヴァルドルフ学校に対する最初の印象について、湯は「自由な校風が心に残った。」⁸と述べている。

成都のヴァルドルフ学校が拡張したことにより、湯は小学5年生時に、正式にヴァルドルフ学校に入学することとなった。「ヴァルドルフ学校に入った後、私は先生と親しい関係を保った。今までこのような師弟関係はなかった。私に最も大きな影響をもたらしたのは思考の解放であった。この学校に入ってから、私は以前より事物の根源を求めることが好きになった」⁹と彼は述べている。

湯はヴァルドルフ学校の多くの学生が早めに将来の目標を立てることができることに気づいた。彼は8年生時に、ピアノを専攻することを決めた。この目標を立てた後、彼は半年間をかけて入学試験のために準備し、四川音楽学院附属中等芸術学校に入ることができた。成都ヴァルドルフ学校の卒業生の中で、彼は最初に大学入試試験に参加した。その結果、2014年、彼は四川音楽学院に進学し、そこでピアノを専攻した。さらに、2018年9月、湯はアメリカのリン大学音楽院(Lynn University Conservatory of Music)に留学し、大学院生としてピアノを専攻しつづけていた。

湯はヴァルドルフ学校時代を振り返って、「ヴァルドルフ学校の先生は学生に公式を覚えさせることはなく、推理で問題を解答させる。そのため、私は高校に入った後、自分の理解能力が他のクラスメートより高く、数学が得意であると気づいた。ヴァルドルフ学校の学生は普通の教育に追いつくことができる。私は高校時代に、数学と地理の試験で一位をとることがあった」¹⁰と述べている。

そして、湯は「改めて学校を選択しても、私はヴァルドルフ学校を選ぶだろう」¹¹と

言っている。彼は二つの異なる教育システムを経験した後、ヴァルドルフ教育の方が自らに相応しい教育であると考えた。中国で最初のヴァルドルフ学校は、国内に同様の確立した施設がなかったため、先行する諸外国のヴァルドルフ学校に比べ、当時いくつか不足したところがあった。しかし、彼は「自分は試作品だったが、それは成功した試作品だった。この教育は私に長期的な深い影響をもたらすだろう」¹²と述べている。しかも、彼は社会の本流から弾き出されることなく、周りの非ヴァルドルフ教育の学生と友人になることができた。

黄時語は中国におけるヴァルドルフ運動の主導者黄曉星と張俐の子どもである。彼女は卒業した後、カナダのヴァルドルフ高校に入った。その後、彼女は同国のクレスト大学 (Quest University Canada) に進学した。

クレスト大学は2学期制を実施し、1学期が3.5週間のブロック4つで構成されている。学生は1ブロックに1授業のみを履修している。クレスト大学では、1科目は毎週5日、毎日3時間がある。学生は午前或いは午後3時間ほど授業に出席して、残りの時間に授業の内容の予習と復習する。ブロック方式で授業を行うことにより、学生たちは集中して深く学ぶことができる。クレスト大学のブロック方式はヴァルドルフ学校のエポック方式 (3から4週間、同一科目を続けて深く学んでいく) と同種の授業方式である。また、クレスト大学において、ブロック方式以外にも面白いところがある。最初の2年間に、基礎科目があり、学生たちは学びの方法を含めた基礎的な知識や技能、資料の批判的考察、発表やレポートの書き方を学ぶ。基礎科目を終える頃までに、学生は自分の「問い」を立て、その後はこの「問い」を中心に上級生向けの科目を履修することになる。残りの2年間で、学生は自分の立てた問いについて卒業論文を書く¹³。このような方式は学生の興味を尊重している。以上の二つのことを理由として、黄時語はクレスト大学を選んだとも言う。

成都ヴァルドルフ学校で勉強した時、黄は「クラスメートのみんなが自分の考えを持っていた。私たちはよく一緒に西洋の古典を読んで、人生の問題を検討した。十一、二歳の私たちにとって、これがこの年齢段階に相応しくなかったものの、皆は楽しんでいた。」¹⁴と言う。この経験によって、黄は哲学問題を検討することが好きになった。彼女の卒業論文のテーマは哲学領域の「プラトンの理想主義に関する研究」である。

黄はインタビューで「ヴァルドルフ教育はあなたにどのような影響をもたらしたか」という質問に対し、「ヴァルドルフ教育は人に安心感を与える、包括性のある教育である。私は非ヴァルドルフ教育の人と友人になることができ、彼らの長所を見極めると同時に、相手の特性を感じる。また、人とコミュニケーションする時に、互いの違いを受

けいれることができる」¹⁵と答えている。

小学校から大学まで、黄はメインストリームとは異なるオルタナティブ教育¹⁶を受けてきた。そのために、彼女はチャレンジが好きで、冒険が好きな人になった。彼女は「私はチャレンジすることが好き、質問する勇気を持ち、流れに身を任せない」¹⁷という自己評価を持っている。そして彼女は「ヴァルドルフ教育が自分の成長に大きな比重を占めたために、私はこの特性を思う存分に発揮することができた」¹⁸と考えている。彼女はオルタナティブ教育も存在する価値があると考えている。その価値とは、私たちが新しいことを探し、試し、改善することを可能にすることにある。ヴァルドルフ教育は多くの教育の中の一つであるものの、閉塞化する世界の教育に新たな活力をもたらしたといえよう。

黄は多くの人と異なる道を選択し、個性的な人物になった。大学を卒業したばかりの黄は一年間の教員トレーニングを受け、先生になるという目標を立てた。

2018年9月から、黄は広州のあるヴァルドルフ学校で英語を教えている。ヴァルドルフ教師になった後、この仕事に対して、黄は「優秀なヴァルドルフ教師になるために、ヴァルドルフ教育の理念を深く理解した上で、授業を準備し、また授業を行う際に、子どもを観察することが必要である。その上、睡眠を十分に取り、芸術活動に参加し、瞑想し、生活を楽しんでいる。このような要求を満たすために、頑強な意志と良い習慣が不可欠である」¹⁹と語った。黄は仕事をする際に、ヴァルドルフ教育の理念、意義、今後の発展方向などをよく考え、よりよい教師になることを目指す。

最後に挙げる李麦は、成都ヴァルドルフ学校の校長李澤武の娘であり、最初の卒業生である。2004年から2010年、成都ヴァルドルフ学校草創期に就学していた。卒業した後、李もまた海外のヴァルドルフ高校に入った。卒業後、彼女は、2016年にロンドン芸術大学（University of the Arts London）に進学し、デザインを専攻した。2019年の調査によると、彼女はアメリカのハワイ大学（University of Hawaii）で就学している²⁰。

幼い頃、李は成都ヴァルドルフ学校で色々な遊びを通して楽しく学んでいる。授業を受ける時にも、彼女は遊びながら様々な知識を身につけていった。ヴァルドルフ教育をよく知らない人は、この教育は遊びばかりであるという誤解を持つ。この誤解に対して、彼女は全然気にせず、この教育を通して、色々な勉強が自分の身になったと考えている。彼女は特にヴァルドルフ人形が自分に与える影響を強調する。

人形には天然素材が使われており、人形に詰める綿は羊毛を選ぶ。この人形は表情が生まれず、子どものそのときの心情により様々な表情に見えてくる。このような人形遊びを通して、子どもの想像力が育成されている。

ヴァルドルフ教育に対して、李は「ヴァルドルフ教育は私の創造力を育てた。問題が起こる時に、この豊かな創造力のおかげで、私は様々な解決方法を見出せる。本当に感謝している」と述べている²¹。

以上の内容から次のようなことが言えるだろう。まずヴァルドルフ教育を通して、ヴァルドルフ学校の卒業生の感情、意志、思考はバランスよく発達していることである。ヴァルドルフ学校の学生は優れた自習能力・理解能力を持つので、途中で公立学校に転校しても、早めに適応できる。また、彼らは他者への細かい配慮に優れるため、周囲のひとと良い関係を維持することができ、社会生活に適応できる。そして、ヴァルドルフ教育は学生の人生と価値観に影響を与え、学生は自由に自分にとって相応しい人生の方向に向かうのである。

以上、中国で最初のヴァルドルフ学校の卒業生の声からこの学校の特徴を描出した。次項では、この最初のヴァルドルフ学校の校長を務めた李澤武によるヴァルドルフ教育の考えについて紹介してみよう。

2、 ヴァルドルフ学校長・李澤武によるヴァルドルフ教育についての考え

中国におけるヴァルドルフ教育の指導的実践者である李澤武は、中国で展開されたヴァルドルフ教育にどのような考えを持っているか。ここでは、中国で刊行された『幼児100（教師版）』²²に執筆した李の論考を参考にして、彼の中国のヴァルドルフ教育に対する考えをまとめてみたい。

ヴァルドルフ教育の概念について、李は次のように考えている²³。ヴァルドルフ教育は全人教育であり、この教育は体・心・知がよいバランスで発達することを重視する。ヴァルドルフ教育は人間の発達の規律を尊重し、年齢によって人間の発達段階を三期に分ける。例えば、幼児期には、子どもの生命力と意志の力を重視し、小学校の時期には、子どもの感情を重視し、思春期の時期には、子どもの思考力を重視する。この教育方法はヴァルドルフ教育と他の教育の間で最も異なる場所であると李は述べている。

中国のヴァルドルフ教育の特徴について、李は次のように考えている²⁴。第一に、ヴァルドルフ教育は子どもの天性を尊重する。この天性は子どもの遊び・学び・自由を含める。簡単に言えば、ヴァルドルフ教育は子どもを自分らしく成長させるのである。第二に、ヴァルドルフ教育は文化を掘り起こすことを重視する。中国において、ヴァルドルフ教育は中国の文化と融合して、教育を行っている。例えば、中国人は二十四節気を重視する。ヴァルドルフ教育は二十四節気の文化に触れることを通して、子どもに四季のめぐりや大地の変化を感じさせる。第三に、ヴァルドルフ教育は子どもの発達の規律

に従って子どもを全面的に発達させる。

ヴァルドルフ教育は中国の文化と融合することを通して、中国のヴァルドルフ教育になった。すなわち、中国のヴァルドルフの教育者は中国の物語・歴史・文字・芸術（中国画、書道、囲碁、太極など）を深く研究した後で、ヴァルドルフ教育と中国の文化と融合させたのである。もちろん、ヴァルドルフ教育の中国への適用の過程は複雑である。この過程の複雑さに従う問題について、李は次の三つを挙げる²⁵。

第一に、人間の発達の規律についての理解である。例えば、一部の幼稚園では、教師は子どもに儒家の経典を読ませている。ヴァルドルフ教育はこの教育方法に反対する。ヴァルドルフ教育は、幼児期は子どもの身体と感覚の発達段階であり、知性の発達段階ではないと提唱する。子どもが小学校五年生になった後で、経典を読むべきであるとヴァルドルフ教育者は考える。第二に、中国の文化を掘り起こすことと研究することである。中国は悠久なる歴史と豊かで深遠な文化を持っている。現在、人は伝統文化を伝える時に、文化の根源と意義を疎かにしている。教育者は子どもに伝統文化を伝える時に、深く研究した後で、子どもに伝えるべきである。第三に、ヴァルドルフ教育の教育者としての自己教育の必要性がある。彼らは新しいものを受け入れる勇気を持つ必要があり、自分の目で価値があるものを見極め、プラスの影響を与えるものを子どもに伝えるべきである。

李はヴァルドルフ学校の卒業生に対し、次のように評価している²⁶。成都ヴァルドルフ学校の最初の卒業生は八年生であり、多くの卒業生は外国へ留学した。彼らが選択した大学は世界の一流大学である。毎年、卒業する学生は主に国内の私立学校或いは国外の学校に入学し、一部の卒業生は公立学校に入学する。ヴァルドルフ学校から卒業した学生はポジティブなエネルギーと包容力を持ち、朗らかで、誠実な人である。彼らは集中力と実践能力が高く、創造力を持っている。彼らは常に好奇心を持ち、多くのことに深い興味を持ち、事物の根源を探究することを得意とする。彼らはよく他人を受け入れ、相手の気持ちをよく理解する。その結果、彼らは他者への配慮にも優れている。また、ヴァルドルフ教育を受けた学生は理解力と自主性が高く、公立学校に入っても公立学校のカリキュラムに柔軟に適應することができる。さらに、ヴァルドルフ学校の子どもはよくアウトドア活動に参加するため、身体はバランスよく発達する。それゆえ、ヴァルドルフ学校の子どもは他の子ども（ヴァルドルフ教育を受けない子ども）より健康であると李は考えている。

現在、中国において、ヴァルドルフ教育が挑戦していることについて、李は次の三つを挙げている²⁷。

第一に、教師の養成である。ヴァルドルフの教師は高い専門能力を持つことを要求され、自分でカリキュラムを作成しなければならない。第二に、多様な教育が存在する社会において、中国の政府がヴァルドルフ教育に多くの機会を与えることである。現在、中国の多くのヴァルドルフ学校は規模が小さい。このような状況で、ヴァルドルフ教育はどのように発展していくべきかという課題に直面している。李は中国の政府が法律を制定することを通して、これら小規模な学校が保護されるように呼びかけている。第三に、時代の変化によって、教育方法も変化しているので、ヴァルドルフ教育は基本的な理念に基づき、新しい教育方法などを見つけないといけない。

また、今後中国におけるヴァルドルフ教育の変化について、彼は以下の三つのことを挙げている²⁸。

第一に、学校の数が増え、正式に認可される学校の数も多くなること。現在、多くのヴァルドルフ学校は家庭教育と塾のような形式で存在している。今後、これらの学校が正式に認可されるのが時代の流れである。また、ヴァルドルフに関わる機構も多くなる。ヴァルドルフ教育の発展を進めるためには、ヴァルドルフの学校だけでなく、ヴァルドルフのコミュニティ（筆者注：人々が共同体意識を持って共同生活を営む一定の地域、及びその人々の集団）なども必要である。第二に、ヴァルドルフ教育が強調する「実践性」から、公立学校が多くの上乗えを得ること。第三に、ヴァルドルフ教育は文化の研究を進めること。現在、ヴァルドルフ教育を受け入れる人の中には、多くの専門家と学者がいる。彼らはヴァルドルフを通して、中国の伝統文化、人間の文化を更に研究するようになるだろう。

おわりに

本研究は、まず中国の成都ヴァルドルフ学校の卒業生四人のそれぞれの成長過程及び彼らのこの教育に対する評価を考察してきた。ヴァルドルフ教育を通して、卒業生たちの感情・意志・思考はバランスよく発達する。彼らは集中力と実践能力が高く、創造力を持ち、事物の根源を探究することを得意とする。それゆえ、どのような問題が起こっても、彼らは色々な解決方法を見出せる。彼らはヴァルドルフ教育が自分の人生に非常に役立つと思い、この教育に高い評価を持っている。しかも、ヴァルドルフの卒業生は、包容力を持ち、他人を受け入れ、相手の気持ちをよく理解し、周囲の人と良い関係を維持することができるため、社会の本流から弾き出されることにならない。要するに、中国の成都ヴァルドルフ学校の卒業生たちは概して、ヴァルドルフ教育は自分の人生に非常に役立つと思い、この教育に高い評価を持っているといえる。

次に、筆者は成都ヴァルドルフ学校の校長李澤武の記述を通して中国におけるヴァルドルフ教育に対する考えを整理した。それによれば、ヴァルドルフ学校の教育者はその教育理論と中国の文化を深く理解した上で、両者の融合を通して、ヴァルドルフ教育を本土化する可能性をもつ。ヴァルドルフ教育の発展を厳密に進めるためには、ヴァルドルフのコミュニティなどが不可欠である。また、時代の変化と共に、教育者たちはヴァルドルフ教育の新しい教育方法などを考えなければならない。加えて、多様な教育が存在する社会において、中国の政府がヴァルドルフ教育に多くの機会を与える必要がある。

以上の考察を通して、今後、中国でヴァルドルフの発展を進めるために、広く人々は、ヴァルドルフの教育者、ヴァルドルフ教育を受けている子どもの親、ヴァルドルフの卒業生の生の声を聞き、その実態と有効性を理解し、政府は教育の多元化のもと、この教育を支える公的仕組みを整えなければならないと考える。

註

1、四川教育報刊社編『教育導報』、四川教育報刊社、2017年第61期、第2版。

<http://jydb.scedumedia.com/DocumentElectronic/201729061-1437.html> 2021年3月22日閲覧

2、成都華徳福学校編『成都華徳福学校15周年（2004—2019）校慶専刊（成都ヴァルドルフ学校の創校15周年（2004—2019）の特集）』、成都華徳福学校、2019年。

3、バークリーメソッド（Berklee Method）とは、アメリカのバークリー音楽大学での教えられている音楽理論、もしくは音楽教育の事。

4、四川教育報刊社編『教育導報』、四川教育報刊社、2017年第61期、第2版。

5、同上。

6、同上。

7、同上。

8、同上。

9、同上。

10、同上。

11、同上。

12、同上。

13、<https://ameblo.jp/sophiainu/entry-12333075157.html> 2021年3月22日閲覧

14、四川教育報刊社編『教育導報』、四川教育報刊社、2017年第61期、第2版。

15、同上。

16、Alternative education もしくは代替教育とは、「非伝統的な教育」や「教育選択肢」とも言い、主流または伝統とは異なる教授・学習方法を意味する。オルタナティブ教育方法の多くは、主流・伝統的な教育とは根本的に異なる哲学に基づいて発展したものである。ヨーロッパのシュタイナー学校やアメリカのホームスクールに見られるような非常に強い政治的、学術的、宗教的または哲学的な方向性を持つものがある。教育選択肢には、公立校、私立校、無認可校（営利・非営利）、ホームスクールなど多岐に渡っているが、大部分が少人数クラス、教師と生徒との近しい関係、コミュニティ意識の三点に重きを置いている。

17、四川教育報社編『教育導報』、四川教育報刊社、2017年第61期、第2版。

18、同上。

19、成都華徳福学校編『成都華徳福学校15周年（2004—2019）校慶專刊（成都ヴァルドルフ学校の創校15周年（2004—2019）の特集）』、成都華徳福学校、2019年、239頁。

20、同上書、240頁。

21、同上書、243頁。

22、『幼児100（教師版）』江蘇少年兒童出版社、2016年3月、28～29頁。

23、同上。

24、同上。

25、同上。

26、同上。

27、同上。

28、同上。

Some Considerations on Waldorf School in Chengdu **—Through a survey of graduates and principals—**

Xiaocui Xu (Hiroshima University)

In China, various problems have emerged in the promotion of “Quality-oriented education” because of the conventional view of education as “Examination-oriented education.” In this background, many people are seeking an ideal school, true education, and ways to overcome this crisis. It is important for educators to have strong, novel ideas and theories of educational methods in order to overcome problematic situations and realize rich and true education. During the process of recognizing the necessity and importance of ideas and theories in education and investigating the history of education, I am strongly attracted to the education method and theory suggested by Rudolf Steiner (1865-1925), as well as some educators.

This school, that practices the curriculum suggested by Steiner's deep and broad ideas, is known as Free Waldorf School or Rudolf Steiner School (in China, it is called “Waldorf” (HuaDeFu)) by many people. China's first Waldorf School, Chengdu Waldorf School, was founded in September 2004. Since then, practitioners at the School have sought to get it approved by the government, and in 2006 they received a formal approval for kindergarten. (In 2012, approval was received for primary education).

This paper examines the direction of development of Waldorf education in China through a survey of four graduates and principals of the Chengdu Waldorf School.